岩手医科大学歯学会第 43 回総会抄録

日時：平成 29 年 7 月 1 日（土）午後 1 時
会場：岩手医科大学歯学部第四講義室（C 棟 6 階）

特別講演

教育と再生

Education and regeneration

○八重柏　隆

岩手医科大学歯学部歯科保存学講座
歯周療法学分野

本学歯学部の国試合格率は 15 期までは 100％だったが，年々低下し全国最低まで凋落した．入学者の定員割れも生じ，歯学部の廃部が当時内外で囁かれた．入学者が無ければ廃部は必至である．東日本大震災の 2011（平成 23）年に本学の教育改革が開始した．改革後約 6 年経過した昨年度 47 期生の本学新卒国試合格率は，（国公立大学含め）ほぼ全国平均レベルまで回復した．これは 4 年次 CBT 学力向上効果と 6 年次卒業判定レベルを現行の国試合格水準に合わせて引き上げたためである．しかし 6 年留年率は依然高く，単年度のみでの学力底上げには限界が有る．しかも 5 年次臨床実習中に学力は低下する．4 年次修了時点で，ストレート進級・国試合格に必要な基本学力を修得できる仕組みが，本学再生には必要不可欠である．

歯周領域では成長因子の FGF-2 が日本で承認，保険導入された．再生には幹細胞，足場そして成長因子が必要で，教育も似ている．まずは再生する人（目覚めた学生および教員他），再生に必要な仕組み（カリキュラム）設定，そして再生を積極的に促す力（周囲のサポート，本人の自覚と自信）である．

私は 4 年ほど CBT に関わり，PDCA サイクルで本学 CBT 正答率も共用試験機構提出問題の本学採択率（全国順位）も幸い改善，向上した．学生の CBT 認識が遅すぎて結果的に間に合わない，CBT 進級判定レベルが低すぎることが，担当当初の問題であった．早期に学習開始させ，同時に適正な進級判定レベルに上げる必要があった．判定レベルの新規設定と CBT ネット模試の新規導入で学生自身が早期に目覚め学力は向上した．次年度以降は，ある水準に達するまで演習を繰り返す仕組み等を追加導入し，進級レベルをさらに引き上げ現在に至っている．これまで実践した教育の取り組みから，教育再生には期限を考慮した介入と見守りによる学生・教員自身の誇りと自信獲得が必要不可欠であると考える．

一般講演

1．Zoledronic acid は TGF-β により活性化する歯肉線維芽細胞の線維組織形成能力を抑制する

Zoledronic acid suppresses transforming growth factor-β-induced fibrogenesis by human gingival fibroblasts

○小松 祐子

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野

研究背景および目的：近年，骨疾患に対し Bisphosphonates（BPs）が広く用いられている．一方，BPs をはじめとする種々の薬剤の投与を受けている患者が顎骨に骨髄炎様症状を生じ る Medication-related osteonecrosis of the jaw（MRONJ）が報告されている．

BPs は軟組織に細胞毒性を有することが報告されているため，MRONJ の発症，経過を考える上で，軟組織に対する BPs の影響を解析することは不可欠である．そこで我々は，Zoledronic acid（ZA）が口腔軟組織へ与える影響を検証することを目的として，細胞生物学的検討を試みた．